



# 上電の魅力を知り利用しよう

## 地域の鉄道を守るために

上電の愛称で親しまれてきた上毛電鉄。かつては前橋桐生間の輸送は上電が主な担い手でした。しかしマイカーの普及や商業施設の郊外立地、学校の統廃合や少子化によって、利用者は年々減少。こうした状況は全国の地方鉄道に共通の課題ですが、廃線となってしまったところもあります。今回は、「みんなで上電のことを知り支えるきっかけができれば」と考え、再生に取り組む上電本社と沿線自治体として支援する市いきいき生活課取材しました。

担当は市民編集委員木塚・五明。

問い合わせは  
上毛電鉄 ☎231-3597  
いきいき生活課 ☎898-6238



- ①上電のホームページ。最新の情報をチェックしよう
- ②中央前橋駅のレンタサイクル。買い物や散策に便利
- ③クリスマストレイン。今後は桜や風鈴などの飾り付けも
- ④80周年記念イベント。多くの家族連れでにぎわう
- ⑤上泉駅北側の利用者無料駐車場
- ⑥デハ101号の運行。9万円で貸し切り運転も

### 上電本社で古澤社長に話を聞きました

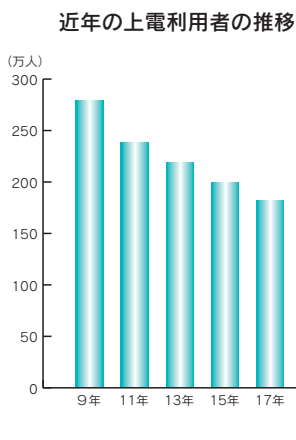
地方鉄道は地域住民のライフラインの一つであり、それと同時に地域振興という役割も担っています。周知のとおり上電利用者の減少に歯止めがかからない厳しい状況が続いているそうです。このため、国や県、沿線自治体から設備維持などで支援を受けています。乗客の安全を守り、時間に正確に電車を運行することを最優先に取り組んでいます。無人駅では運転士が車掌や改札業務を兼務するなど経営コストの合理化にも力を入れているそうです。そして、もっと上電に親しんで乗ってもらおうとさまざまな取り組みを行っています。

**■ サイクルトレインや無料のレンタサイクル**  
駅まで、そして駅からの利便性と回遊性を向上するために、全国でも珍しい、自転車と一緒に乗車できるサイクルトレインがあります。上電では朝の混雑している時間帯を除き、全列車で実施。さらに西桐生・中央前橋・大胡・赤城の各駅には無料のレンタサイクルも常備されています。

**■ 季節の飾り付け電車**  
クリスマストレインなど、季節ごとに車内が飾られています。お客様を和ませる、

### 本市や県、沿線各市の上電支援について取材

市いきいき生活課交通対策室で、沿線自治体が行う支援策について取材しました。  
**■ なぜ存続が叫ばれるようになりましたか**  
昭和3年開業の上電は、昨年80周年。輸送人員については昭和40年度の958万人をピークに平成19年度は179万人まで減少したそうです。これが運賃収入の減少に直結。設備投資にも資金が回らず、経営の存続が取りざたされるようになりました。



### どのような支援を行っていますか

本市では必要な支援を県とみどり市、桐生市の沿線自治体と共同で行っています。主な支援として安全設備の更新などに対する補助や鉄道事業に経常損失が生じた場合に線路や電路の維持にかかる人件費や修繕費などの補助、固定資産税等相当額補助な

アットホームな雰囲気も上電の大きな魅力と感じました。

### ■ さまざまなイベント

歩け歩け大会やハイキングなど、沿線の観光スポットを散策するイベントが開かれており、多くの人が参加しているそうです。

また他のイベントとして、開業当時に作られたデハ101号も臨時運行。昨年11月9日には開通80周年イベントが大胡駅電車庫で開かれ、市民や鉄道ファンなど5,100人で盛り上がりました。

### ■ お得な割引切符

乗車券には、乗り降り自由の赤城南麓1日フリー切符(1,300円)、ワンデイフリーパス(期間限定800円)などもあります。環境定期券は土日曜祝日(年末年始を除く)に、同伴の家族3人まで1人200円で乗車できます。

また、敬老の日には60歳以上の人を対象に片道100円で全区間利用できる「ワンコイン列車」を運行。沿線のお祭りの日には臨時列車を増発。昨年も前橋まつりと桐生八木節まつりの日に、運行されました。

### ■ 駅前駐車場の無料化

上泉・大胡・北原・粕川・新里の5駅に隣接する駐車場は上電を利用する場合、無料です。駅までマイカーで行き、そして電車に乗ると「パークアンドライド」をやってみてはいかがでしょうか。

どです。また、県や沿線市などが、上電沿線市連絡協議会を組織し各種割引切符に対する運賃補助や各種イベントなどのPR活動を行っています。

### ■ その効果や市民に期待すること

個々の事業効果については、具体的に効果を測定することが難しい状況とすることで、上電再生に向けた支援や取り組みを行わない場合は、平成24年度には、利用者はさらに減って150万人を切るという試算もされているそうです。車中心のライフスタイルを見つめ直し、公共交通機関と自家用車を使い分け、両者が共存できる社会を実現することが大切。そのために、上電に関心を持って可能な限り上電を利用してほしいとのことでした。

### 編集 後記

鉄道は老若男女問わず利用できる交通機関です。今回の取材を通して、沿線高校生の通学や自分が高齢になって車の運転ができなくなったときのことを考えると、鉄道は有効な交通手段であると感じました。車と比べ、鉄道は一度に多くの乗客を乗せることができ、CO<sub>2</sub>の排出量が少ないことから、環境負荷の小さいとてもエコな乗り物です。わたしも上電の魅力をPRし、桐生や浅草方面へ出掛けるときは上電を利用したいと思いました。